



士気高め、無火災への心意気を示す

平成18年の北秋田市消防出初式が1月4日(水)、鷹巣地区で開催され、消防団員や婦人消防協力隊員およそ750人が吹雪に見舞われた悪天候の中、市役所本庁舎付近から商店街を経て鷹巣体育館までを威風堂々と行進、また、式典では功労表彰などが行われ、無火災へ決意を新たにしました。



▲吹き付ける雪の中、パレードを観閲する岸部市長、中村消防団長、畠山消防長ら

鷹巣、合川、森吉、阿仁の各地区の消防団・婦人消防協力隊からおよそ750人の団員、隊員が参加し、鷹巣地区の中心街を威風堂々の行進を繰り広げました。



全市の消防団、婦人消防隊などの参加で目抜き通りを分列行進

今年の出初式は合併後初の開催となったことから、全市の分団が参加して行われました。およそ750人の参加となった分列行進の隊列に市消防本部と各分団の車両部隊が加わり市中央公民館前を出発、商店街では、岸部陸市長、中村信一消防団長、畠山勇悦消防長らの観閲を受けました。

この日は、強い吹雪に見舞われたにもかかわらず、各団とも士気を高めながら鷹巣体育館まで一糸乱れぬ行進を展開、沿道で見守る多くの市民に無火災への心意気を示しました。

「地域防災の担い手として訓練に励んでほしい」——岸部市長

パレード終了後、鷹巣体育館で開かれた式典では、はじめに岸部市長が「今年の出初式は記念すべき市としての第一回目の開催となった。全国的に見ても昨年は、台風被害や福岡西方沖地震、そして山形での列車脱線事故など災害や事故が相次いだ。幸い当市では大きな災害はなかったが、いつ起きるか予測できない被害を最小限に食い止めるよう、関係者が一体となった活動を進めなければいけない。これには一人ひとりの力が大切。積極的に防災訓練に取り組み、地域防災の担い手をして訓練に励んでほしい」と式辞。

「各分団が協力し『火災予防』を合言葉に活動を」——中村消防団長

続いて中村消防団長が、「昨年管内で起きた火災は20件だった。合併により市消防団となったが消防の精神は不変。日頃から訓練に励み、市民の安心と安全に貢献できるように、火災予防を合言葉に活動してまいりたい」と、訓辞を述べました。

この後、秋田県知事表彰、消防協会表彰などの功労表彰が行われ、今年1年の無火災と無災害を願いました。



▲消防関係者が鷹巣体育館に一堂に会して行われた出初式の式典

現在、消防団員数は4地区で853人。また、80人を越える婦人消防協力隊も地域の防災活動を担います。しかし、災害を未然に防ぐには、市民一人ひとりの協力がが必要です。

式典では、県知事表彰、市長表彰などの功労表彰、大館北秋田支部長表彰(防火作文)の伝達と表彰も行われました。



▲県消防協会大館北秋田支部長表彰(防災作文・優秀賞)で表彰を受ける森吉中学校1年の加賀大地君



▲秋田県知事表彰は65人が受賞。(写真は、有功章を受章した森吉支団第4分団の清水勇一分団長)